０４／０６／１３　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：神のご性質にあずかる者となる２
聖書箇所：ペテロの手紙第二　１章６－１１節

霊的に成長して行くことは神が私たち一人一人に望んでおられることであると、これまで繰り返し学んできました。イエスを信じて罪が赦され天に行ける者になった、それですべてが終わったわけではありません。クリスチャンとしての成長はしてもしなくてもどちらでもいいものではありません。これは神が私たち一人一人に命じておられることです。ペテロは私たちにその成長のカギを教えてくれました。どのようにすれば信仰が成長して行くのか、神が望んでおられるような信仰者へと私たちが変わって行くためには何が必要なのか、そのことをペテロは前回教えてくれました。

Ｉ．霊的成長のカギ

Ａ．神の働き

霊的成長のカギは神にあるということを初めに覚えておきましょう。私たちの霊的成長を神は助けてくださるのです。すべてのこと、困難や試練も私たちの益のために与えられるので、それは神が私たちを愛してくださるゆえであり、私たちの信仰の成長のためであると前回学びました。

Ｂ．人間の責任

しかし、すべてを神に任せて私たちは何もしなくて良いというのではありません。成長は確かに神のみわざであるけれども、私たちイエスを信じた者にも大切な責任があることをペテロは教えています。だから、あらゆる努力をして、これらのものをあなたに加えなさいと１：５，６で語っています。一生懸命努力して熱心に真剣に、自らの信仰の成長のために努めて行くことが必要であるというのです。バークレーという神学者は「信仰は人間から働くことを免除しない。神の惜しみなさは人間から努力を奪い取らない。人生における私たちの努力は神の恵みとともに働き、不可欠のうるわしさを生み出すときに、最も高尚で最善のものとなるのである」と語っています。霊的成長のカギはまた自分自身にもあるのです。そのことを願い、そのために熱心に努力して行かなければならないと、ペテロは私たちに語るのです。特にこのようなものが私たちの生活の中に大きく成長して行くようにと、ペテロは七つのことを挙げて教えています。そのいくつかを前回見ましたが、続いて見て行きましょう。

１）信仰には徳を加えなさい　　５節

すべては信仰から始まること、その上で私たちの生活がきよいものとなるように、道徳的に成長するように。私たちが主に喜ばれる者になって行くために、私たちを誘惑するものから徹底的に離れることが必要です。

２）徳には知識を加えなさい　　５節

何が正しいのか、何が間違っているのか見極めることができるように。日々の生活の中において、この状況で一体何をするのが神に喜ばれるのか、この問題にどのように考えるのが神の前に正しいのか、この人々にどのように接するか、どのように話しすればいいのか、どのような思いを持てばよいのかをいつも考えて、主の前に正しいことを選択して行きなさい、それが私たちには必要だとペテロは言うのです。識別力を磨きなさいということです。

３）知識には自制を加えなさい　　６節

自らの願望や願いをコントロールすることが必要だと言います。というのは、私たちの弱さは、救われた後でも自分のやりたいことが私たちの心を支配するからです。これをしたい、このようにしたい、今したい、とそのような思いを常に抱く者です。神のみこころをと言いながら、私たちは自分の願いを優先するのです。自分の願いがみこころになることを期待するのです。一番適切な例は結婚問題です。何歳までに子どもを産まなければならないと考えていろいろと計画を立てます。あたかもそれが最善であるかのように信じきっています。しかし、みことばはそのようなことを教えてはいません。私たちは自分が考えること、思うこと、一般的に常識と言われていること、この世から得る様々な知恵に基づいて、これが最善だと決めてしまっているのです。そして、それがみこころになることを望んでいるというのは、それが最善であると信じているからです。ペテロは自制を加えるようにと言いました。つまり、そういう思いが出てくるし、人からいろいろなことを言われるかもしれないけれど、私たちは自分の願いや願望を横に置いて、主よ、どうぞ私にみこころを教えてください、そして、それに忠実に従って行けるように助けてくださいと求めることです。神の最善を求め、神の最善のときを忍耐をもって待つことです。

ここで記されている七つのことは、一つをマスターしたから次のステップに上がるというのではあり

ません。どれもが関連しているのです。一つのことを継続しながら他のこともやって行くようにとペテロは教えているのです。

４）自制には忍耐を加えなさい　　６節

主に対する希望をもって生きて行くことです。同じペテロ第二の手紙３章を見ると、ペテロはこれからの世の中がどのようになって行くかを教えています。３：３－４には**「まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、:4 次のように言うでしょう。「キリストの来臨の約束はどこにあるのか。先祖たちが眠った時からこのかた、何事も創造の初めからのままではないか。」**と、このような時代になるといいます。確実に世の終わりに近付いているけれど、そうなればなるほど、聖書の教えていることを疑うように人々は私たちを惑わして行きます。さまざまな偽りによって惑わされて行くと言います。しかし、そのような時代になってもあなたは神のみことばにしっかり信頼して、忍耐をもってその約束に立って歩んで行きなさいとペテロは教えるのです。私たちはいろいろな試練や困難を経験しますが、その中にあっても主に信頼を置いて生きて行くように、確かに惑わすものはあるけれど、主の約束が成就する日が近づいているから、と言うのです。

５）忍耐には敬虔を加えなさい　　６節

主への正しい態度です。試練や困難の中でも主に信頼を置いて生きて行こうとするのは、主に対する敬虔な態度がその力となるのです。というのは、その人の心の中には自分の為すあらゆることに主を喜ばせようとする願いがあるからです。ペテロはかつての女性についてこのように言っています。Ｉペテロ３：５**「むかし神に望みを置いた敬虔な婦人たちも、このように自分を飾って、夫に従ったのです。」**と、彼女たちが自分の夫に喜んで従って行ったのは、それが神に喜ばれることだったからです。その動機は神への敬虔な思いであったと、ペテロは教えるのです。彼女らは神を畏れるゆえに神の前に正しいことをして行ったのです。そのような心の態度が私たちには必要であることをペテロは教えるのです。

６）敬虔には兄弟愛を加えなさい　　７節

ペテロは兄弟姉妹を愛するようにと教えるのですが、ここで教えているのは、クリスチャンたちに対する態度です。どのような態度をもって接するのかです。ペテロは、その人の必要に対して応えて行きなさいと教えるのです。そして、そのことは他の人たちも同じように教えていることです。Ｉヨハネ３：１３－１８を見るとヨハネはこのように教えています。**「兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。:14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。」**と、兄弟姉妹を愛するというのは救われていることの証拠であると言います。そして、どのように兄弟姉妹を愛することが神に喜ばれ、また、神が望んでおられるのかについて、このように続きます。**「:15 兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。:16 キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。:17 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。:18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。」**、ヨハネが教えるように兄弟の必要に対して私たちは心を閉ざすことなく、喜んで、それに応えて行こうとする、そのような愛が兄弟姉妹の間に必要なのです。同じ箇所の４：１２には**「いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。」**と、だれも神を見たことはないけれども、クリスチャンたちが愛し合っているなら、そこに人々は神を見ることができるのだと言います。ですから、私たちがお互いに愛し合って行くことは非常に大切なのです。世にすばらしい証が為されて行くのです。しかし、人を愛するのは難しいことです。それについてパウロはこのように教えています。ローマ１２：１０**「兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。」**と。神の前に私たちは皆平等です。私たちが覚えるべき心の態度は、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思うこと、そのような思いで兄弟姉妹に接することです。

７）兄弟愛には愛を加えなさい　　７節

ここで言われる「愛」は先の兄弟愛と同じことばではありません。これは神の愛、犠牲の伴った愛のことです。必要だけでなく、彼らにとって最も大切なこと、彼らの最善を願うこと、それがイエス・キリストご自身の愛でもあったわけです。ヨハネの手紙の中にこのようなことばがあります。Ｉヨハネ４：８**「愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。」**、また、１６節**「私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。」**。神の愛を見たときに私たちはどのような愛をもって兄弟姉妹、そして、すべての人々に接して行くべきかが分かります。私たちはこの愛とか、犠牲的な愛と聞くと、人の罪を見て見ないふりをすると思ったりします。しかし、それは聖書が教える愛ではありません。私たちが救われたとき、神は

どのようなことを教えてくれたでしょう？初めに分かったことは私たちの罪深さです。どれほど自分が神の基準からはずれているかです。どれほど神に逆らっているかを教えられました。ですから、神を知らない人々に対して、彼らを愛するゆえに、彼らがその罪のために神に逆らっていることを教えることが必要です。同時に、兄弟姉妹に対しても、罪を犯しているなら、そのことを愛をもって示すことが、聖書の教えること、また、神が望んでおられることです。
⇒この七つの徳というものを私たちは見てきました。これらをあなたの生活の中に加えて行きなさい、そのようなことにおいてあなたは成長して行くことが必要だと教えられました。イエスを信じた者のうちには、このような徳がもうあるのです。無いものをあなたのうちに芽生えさせなさいと言われているのではありません。ですから８節に「これらがあなたに備わり、」とあり、あなたの所有である、あなたの持ち物であると言われるのです。だから、クリスチャンなのです。イエスを信じたときに私たちはこのような人物に変えられたのです。道徳的にきよく歩んで行こうとします。何が神の前に正しいのかを考える者に造り返られた。自分の願いや欲望よりも神のみこころに従って行く者に変えていってくださる。どのようなことがあっても、どのようなことを言われようとも主のみことばに立って、忍耐をもって生きて行こうと、主を信頼する者に変えていってくださる。神を敬い、神を愛するゆえにすべてのことを為して行こうとし、兄弟姉妹を心から愛し彼らの必要に応えて行こうとする。キリストに愛された者としてそのような愛をもって人々に接して行こうとします。このように神によって備えられたものがますます私たちのうちに大きく成長して行くために、私たちは自分の責任を果たして行くことです。みことばを学ぶこと、それを実生活に生かして行くことです。そのことをペテロは続いて私たちに教えて行きます。

Ⅱ．霊的成長の意義　　８－１１節

なぜ、霊的に成長することが必要なのかを教えます。

Ａ．主に用いられる　　８－９節

あなたの信仰が成長すれば､あなたは主に用いられると言います。８節に**「これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、あなたがたは、私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。」**とあります。**「ますます豊かになる」**とはその中で成長して行くということです。現在形ですから、もっともっとあなたの中でそれが大きく育って行くようにと。そして、それが育って行くなら、**「私たちの主イエス・キリストを知る点で、」**役に立たない者になることはないと言うのです。**「役に立たない」**とは、働きをしない、怠惰、怠けるという意味です。自分に課せられた責任や働きをしないことです。ですから、**「主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。」**というのは、もし私たちが自分の信仰が成長するための働きを怠けているなら、信仰が成長することはないし、私たちの主がどのようなお方かがよくわからないままだと言うのです。つまり、私たちの信仰の成長と主を知るということは密接な関係があるのです。主を知れば知るほど私たちの信仰は成長して行くのです。コロサイ１：１０に**「また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。」**、主にかなった歩みをする、すべての点で主に喜ばれる、働きのうちにおいて豊かな実を結ぶ、そして、主を知る知識が増し加えられて行くと、このように成長することと主を知る知識が増し加わることが結び付いているというのです。私たちは神についてよく知っていても、現実に問題に直面したとき、動揺したり慌てたりするのはどうしてでしょう？知っていることが現実の生活に生かされていないのです。ここにクリスチャン生活の問題があるのです。だから、ペテロが教えるとおりに、私たちは聞いたみことばを実生活に実践して行かなければいけないのです。それがなければ私たちの信仰は変わってこないのです。たとえ豊富な知識がなくても、神のみことばを心から愛し、主の前に膝まづいて「主よ、あなたのみことばをいただこうとしています。語ってください。」と謙虚な態度で求め、そして、教えられたことを感謝して受け、主の助けを仰ぎながらそれに従って行くのです。そのような人に神は働かれ、神はその人を変えていってくださるのです。神の約束を信じて従って行くとき神はみこころを成してくださり、それが確信となるのです。ひとりの神学者はこのように言います。「私たちはイエスとともにイエスのために生きるに従ってイエスを学ぶのだ」と。私たちがイエスを知って行くのは、神学書を読んでイエスについての知識を蓄えるのではなく､日々の生活を通して学んで行くのです｡イエスの愛がどのような愛か、辛い時、孤独な時、人々から憎まれている時に、主を見上げると主が愛してくださっていることが分かります。信仰が実となってゆくのです。ペテロが望んだことはそれなのです。知識をどれほど蓄えてもそれが実生活に生かされていなければ、それは死んだものです。もし、あなたがもっともっと主を深く知って行きたい、愛する主がどのようなお方かをもっと知って行きたいと、そのような思いを持っているなら、あなたは決して主にとって役に立たない者にはならないのです。「役に立たない」ということばには「無力」という意味もあります。つまり、主を知ろうとして、自分にできることを主の助けをい

ただきながら一生懸命して行くなら、私たちは変えられて行き、私たちの信仰生活からいろいろな疑いや疑問が取り去られて行きます。信仰が成長しなければ無駄な人生を送ることになります。「実を結ばない」とはあかしを失って行くことです。周りの人々に神のすばらしさが明らかにされて行かない、影響を与えて行かないのです。信仰の弱い人の生き様は救われていない人の生き様とそれほど変わりがないのです。９節にこのように言われています。**「これらを備えていない者は、近視眼であり、盲目であって、自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまったのです。」**と、目の前のことしか見えなくなる、目先のことばかり見て遠くが見えないのです。私たちに必要なことはいろいろなことの背後におられる神を見ることです。神がこの世界でどのようなことをなさっているのかを見ることです。近視眼では**「自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまった」**、どのようなすばらしい恵みで私たちが満たされているのかを忘れてしまうのです。感謝することが山ほどあるのに感謝を忘れてしまうのです。

Ｂ．信仰の確信を得る　　１０－１１節

霊的成長の意義の二つ目です。あなたはつまづくことがなくなるというのです。１０節に**「ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまずくことなど決してありません。」**とあります。ますます熱心に、ペテロはそのような生き方を望んでいます。そして、信仰が成長するならあなたは確かなものとすることができると言います。それは、

１）救いです。信仰の成長によって私たちは自分が救われたことをより深く強く確信して行きます。神がそのように言われたからです。神の約束だからです。そして、

２）主からのすばらしい報いをいただきます。１１節にあります。**「このようにあなたがたは、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国にはいる恵みを豊かに加えられるのです。」**。ペテロは言います。もしあなたが一生懸命信仰の成長のために努めて行くなら、地上においても満たされた祝された生活を歩んで行けるが、主の前に立ったときには、主からすばらしい報いをいただくことになると。

私たちクリスチャンが覚えておくべきことは、この地上の生活はあっという間に終わり、私たちは主の前に立ち、そこで人生の清算がなされるということです。黙示録にこのようにあります。**「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。」（２２：１２）**このとき、私たちは主に対して忠実であったかどうかが問われるのです。神は私たちの信仰が成長することを望んでおられ、そのために私たちを救ってくださったのです。私たちが成長を願ってそのように努力して行くなら、この地上にあってすばらしい救いの確信をもって歩んで行くことができ、同時に、主の前に立ったとき、神がその恵みで私を守り導いてくださり、ほうびを与えてくださるという確信が与えられるのです。そして、何より、そのような生き方をする人はこの地上にあって、生かされている目的、神の栄光を現わして行くのです。忠実に生きなさい、信仰の成長を目指してあなたにできることをやりなさい、それが神が私たちに望んでおられることです。